

新たな歴史に向かって

鳳エリア建替え運動の道 ③

友の会と地域がふれあって
交流できる健康まつり

鳳エリアの事業所にとつて、5月に行われる健康まつりは初夏恒例の催しで、地域の方も楽しみにしていたれています。コロナ感染症の影響で3年ぶりとなった第30回健康まつりは、建て替え運動のキックオフを内



鳳病院健康まつり (1995年)

外に宣言する場となりました。鳳健康まつりの記念すべき第1回目は1991年11月10日に行われまし



昨年3年ぶりの健康まつり

た。ちょうど今、老健みみはらが建つあたりに舞台をつくり、人形劇(星の子一座)や職員によるダンス、寸劇と盛りだくさんの舞台出演。職員、地域の方も模擬店をならべてにぎわいました。当時の健康まつりではゲートボール大会も行っていました。

今も、野菜販売や食べ物模擬店は好評ですが、昨年の健康まつりでは、感染対策のためやむなく飲食は禁止となりま

した。多彩な健康相談コーナーは、当時から今も変わらず続いており、看護師による血圧測定、薬剤師・栄養士による相談コーナーがあり好評です。

なにより、鳳健康まつりの一番の特徴は、友の会はもろろんのこと、地域の民主団体、保育所などの皆さんが実行委員会に参加し、半年前から準備していることです。まつりを成功させるために

協力券の販売や、企画、運営に責任を持って関わってもらえていることが、鳳エリアの活力につながっています。近年は、有志による健康体操が披露されています。昨年は例年になく、客席の皆さんが舞台の演者と一緒に、積極的に体を動かしておられたのが印象的でした。コロナの影響でフレイルが進まないよう、地域に出向く取り組みが大事と感じます。

職員、友の会と地域がふれあって交流できる催しはますます重要となります。鳳エリアの建て替え完成後も、引き続き地域のご理解ご協力いただきながら、まつりを続けていきたいと思えます。(耳原鳳クリニック 事務長 川畑 望)

ホスピタルアート・ワークショップ

～みんなで語る鳳クリニック～

- 5月13日(土) 14:00～16:00(13:45から受付)
- 耳原鳳クリニック4階 多目的室

鳳クリニックの新築に向けて、昨年2回に渡り開催された「思い出をきかせてください」ワークショップ。建設委員会での検討を経て、ホスピタルアートのコンセプトストーリーと提案がまとまりました。改めて皆さんとの共有と創造の時間をもち、具体的な鳳クリニックの原風景や未来を描いて(表現して)行きたいと思えます。患者さん、そのご家族、スタッフ、OB、地域の方、立場に関わらず参加者を募集しています。絵心、センスは不要。どなたでもご参加ください。

事前申し込み

こちらのQRコードから



またはお電話で 耳原鳳新クリニック建設委員会 TEL: 072-275-0801 (代表)



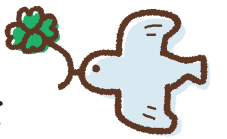
西兎弁護士

また、国民のくらしにとつては、費用捻出のための負担の強化、社会保障費の削減

最後に、「今を『新しい戦前』にしないために、私たちに何ができるか」では、まず、私たち自身が冷静に、事実をもとに主体的に考える「個」の確立が必要なこと。その上で、○軍拡が本当に抑止になるのか、戦わない国・

危険な本質明らかに

日本国憲法の理念を学び、憲法改悪を許さない取り組みを



戦争への道を開く「安保3文書改定」Web学習会

政府は、昨年12月16日、「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」の安保3文書を改定し、敵基地攻撃能力を保有すること、今後5年間の軍事費を現在の1.5倍以上となる43兆5000億円とすることを、十分な審議もなされないまま閣議決定し

ました。これは立憲主義の観点からも極めて問題とも言えるものです。さらに集団的自衛権行使を容認する安保法制の下では、アメリカに対する武力攻撃があった時点で、日本が戦争に巻き込まれる重大な危険があります。同仁会では、その危険な中身を学ぶとともに、平和憲法を活かした社保・平和の取り組みを進めるため、大阪平和委員会会長の西兎弁護士を講師にWebでの学習会を3月22日に開催しました。『いわゆる安保3文書とは何か』では、政府は軍拡の必要性のみ強調し根拠に迫る分析をしていないこと。『敵基地攻撃能力の保有』は、武力行使を禁じた日本国憲法下の自衛隊の主任務、性格を大転換して戦争する国に道を開くこと。さらに、軍事費の増強によって世界第3位の軍事大国となることで、周辺各国との緊張と紛争の危険性が高まると指摘されました。また、国民のくらしにとつては、費用捻出のための負担の強化、社会保障費の削減

ました。これは立憲主義の観点からも極めて問題とも言えるものです。さらに集団的自衛権行使を容認する安保法制の下では、アメリカに対する武力攻撃があった時点で、日本が戦争に巻き込まれる重大な危険があります。同仁会では、その危険な中身を学ぶとともに、平和憲法を活かした社保・平和の取り組みを進めるため、大阪平和委員会会長の西兎弁護士を講師にWebでの学習会を3月22日に開催しました。『いわゆる安保3文書とは何か』では、政府は軍拡の必要性のみ強調し根拠に迫る分析をしていないこと。『敵基地攻撃能力の保有』は、武力行使を禁じた日本国憲法下の自衛隊の主任務、性格を大転換して戦争する国に道を開くこと。さらに、軍事費の増強によって世界第3位の軍事大国となることで、周辺各国との緊張と紛争の危険性が高まると指摘されました。また、国民のくらしにとつては、費用捻出のための負担の強化、社会保障費の削減

安保関連3文書は何を決めたのか

- ①やられる前にやってやる (敵基地反撃能力)
- ②アメリカと一緒にやっつけるぞ (集団的自衛権)
- ③今から準備を進めるぞ (5年で43兆円GDP2%の防衛費)

などを生み、国民の生活がさらに困難になり、生存そのものを脅かすことになること。日米で繰り返されている想定と訓練、沖縄・南西諸島などへのミサイル配備は、再び沖縄や南西諸島、そして本土も戦場になる危険があること。ミサイル配備が進められている沖縄では、本土と比べ物にならないほど緊張感が高まっていて「ごく身近な不安」となっているとの説明がありました。

専守防衛の方が抑止にならないのか? ○戦争に至らないための知恵: 争いを回避して平和を創る思想 ○和解の手段の鉄則は: 「相互に相手を知り、共通の利益を見つけること」 ○今一度日本国憲法を私たちの手で選び直し、日々行使する「作業を地道に繰り返すこと」 など、平和を求める道は幸福追求の道であり、今回の試練を力を合わせて乗り越えることで、その先にある未来への希望を託すことだと締めくくられました。学習会の最後に、大阪・堺の地から「軍拡NO!」のちとくらし守れの声を上げよう!!と確認しました。(同仁会本部 組織部 篠原 聡)

「研修医育成」に皆さまの声を

右のQRコードからアンケートへのご協力をお願いします。(耳原総合病院研修委員会)

